

# eeco-note



**ENVIRONMENTAL REPORT**

**2006**



株式会社 吉村一建設

【 編集方針 】

本報告書は、吉村一建設の環境・社会的活動を多くの方々にご理解いただくとともに、さらなる向上を目指して皆様方とのコミュニケーションを図ることを目的として作成致しました。

「 **環境に優しい住宅 それは お客様に優しい住まいづくり** 」である事をモットーに吉村一建設は、企業活動を行っております。まだまだ改善の余地は沢山あります。これからの吉村一建設の活動にご期待ください。

環境・品質管理部

も く じ

1. トップコミットメント.....	3
2. お客様満足への想い.....	4
• 吉村一建設の誓い.....	4
3. マネジメントシステム.....	5
• 2007年度 方針.....	5
4. 4ヵ年売上報告.....	6
• 過去4年間の実績、予想をご報告いたします。.....	6
5. 環境・品質活動報告 2006.....	7
a) 2005年、2006年の実績(推移)から目標設定.....	7
b) 3R + 1R への取り組み.....	8
c) 産業廃棄物 排出量 削減.....	8
d) エコバックプロジェクト.....	10
e) 2006年度のメンテナンス状況(クレーム、定期点検時の不具合事象).....	12

## 1. トップコミットメント

吉村一建設は、新築一戸建の住宅事業部を柱として、リフォーム事業部、不動産事業部を大阪府下全域に営業活動を行っております。

これからの吉村一建設は、

- 顔の見える経営者
- 御客様の立場になれる現場代理人、現場担当者
- 発生した不具合は、迅速に調査分析し、改善しお客様に正直に報告できる会社の姿勢
- 顧客満足達成の為に、更なる品質向上を目指してコンプライアンス経営を徹底して行う

以上を、経営理念として、事業活動を進めて参ります。

また、今年から進めております外壁事業部（サイディング）においても、自社施工にする事によって、今までの課題であった品質のばらつきを無くしました。また弊社の環境方針にある廃棄物削減に大きく貢献できるようになりました。

今年11月、物流事業部を作りました。今まで、個別に建築資材の配送、廃棄物の収集を外部委託しておりましたが、自社でそれらを行う事により、より配送業務の効率をあげる事ができるようになりました。また、車輛の排気ガスの抑制にもつながり、省資源、省エネルギーを推進できると思います。

新たな仕組み（システム）を構築する事により、品質、環境の改善を行い、無駄なコストを削減しております。

これらは、全て御客様へ納得のいく商品「住宅」を提供できるものと信じております。



平成 19 年 11 月 吉日

代表取締役社長 友藤昭弘

## 2. お客様満足への想い

### ■ 吉村一建設の誓い

## Heart , Confidence & Technology

吉村一建設のコーポレートマークには、3つの想いがこめられています。

#### Heart

家造りの仕事に対する熱い情熱です。社員一人ひとりが努力を惜しまず邁進いたします。

#### Confidence

お客様よりの信頼です。お客様のニーズの多様化への迅速な対応で、お客様の期待を超えることをお約束いたします。

#### Technology

豊富な経験による確かな技術です。最新の建築技術を取得し、独自のシステムを構築しております。お客様の健康と安全をお守りいたします。



時 系	認 証
2002年1月	ISO 9001:2000
2006年2月	ISO 14001:2004
2006年4月	堺技衆

吉村一建設は、2002年1月 ISO9001:2000 を認証取得しました。独自の品質マネジメントシステムを構築する事により、どの建物に対しても、契約から施工、引渡及び付帯サービスに至るまでのどの段階においても均一のサービス提供を行い、お客様の満足度を超える品質管理を築いております。また 2006年2月 には、ISO14001:2004 を認証取得いたしました。企業活動全てにおいて、環境へ配慮した活動を行う事を誓い、法令順守（コンプライアンス）を徹底する事を誓いました。これらの功績が讃えられて、2006年4月には、堺市が認定する優れた製品、サービスや技術力を通じて地域の発展に貢献する「堺技衆」認証企業に選ばれました。



### 3. マネジメントシステム

#### ■ 2007年度 方針

##### 環境方針

吉村一建設は、建築物の設計、施工および付帯サービスを通じて生じる環境影響をとらえ、地域社会および自然環境の持続的発展のために環境保全に努める。

環境汚染予防のため、環境目的、環境目標を定めて、その達成を目指し、内外の監査やマネジメントレビュー活動を通じて当社の環境マネジメントシステムおよび環境パフォーマンスの継続的改善を行う。

当社の活動において関連する法的要求事項および当社が同意するその他の要求事項を遵守する。

当社が実施する環境保全の活動には次の活動を含む。

- ・環境に配慮した設計、施工、購買を行う。
- ・省資源、省エネルギーを推進する。
- ・廃棄物の発生抑制、削減、リサイクルを推進する。
- ・工事の騒音、振動の発生抑制に努める。
- ・(車両)の排気ガスの抑制に努める。

##### 品質方針

『 顧客満足達成の為に、更なる品質向上を目指し、  
コンプライアンス経営を徹底して行なう。 』

## 4. 4ヵ年売上報告

■ 過去4年間の実績、予想をご報告いたします。

項目	2005年度 / 前年度比%	2006年度 / 前年度比%	2007年度 / 前年度比%	2008年度予想
売上高 [千円]	2,400,959 / 117%	2,780,480 / 116%	2,902,611 / 105%	3,092,770
経常利益 [千円]	34,044 / 65%	120,000 / 352%	156,375 / 131%	116,340
着工棟数 [棟] <sup>1</sup>	139 / 108%	186 / 133%	189 / 102%	210
着工床面積 [m <sup>2</sup> ] <sup>2</sup>	14,255.56 / 109%	18,709.83 / 131%	19,345.54 / 104%	21,851.16
” [坪]	4,312.3 / 109%	5,659.72 / 131%	5,852.03 / 104%	6,609.98
従業員数 [人]	33 / 106%	38 / 115%	40 / 106%	41
平均年齢 [歳]	43	41	41	40

吉村一建設の 1m<sup>2</sup>あたりの売上高<sup>3</sup>は、

年度	金額
2005	¥168,423-
2006	¥148,611-
2007	¥150,040-
2008	¥141,538-

<sup>1</sup> 建築請負住宅及び分譲住宅 引渡し総合棟数になります。

<sup>2</sup> 建築確認申請上の施工延床面積です。

<sup>3</sup> 売上高を着工床面積で割った金額です。

## 5. 環境・品質活動報告 2006

a) 2005年、2006年の実績(推移)から目標設定

平成19年5月29日の環境省の発表では、2005年度の日本の温室効果ガス排出量<sup>4</sup>は、13億6,000万トンの排出量だったようです。京都議定書による排出基準年比(1990年)7.8%上回っており、京都議定書の6%削減約束<sup>5</sup>の達成には、13.8%の排出削減が必要となります。

また国民1人当りの二酸化炭素排出量は、10.12トンにもなり2002年以降は増加傾向が続いているようです。

< 排出削減量 >

13億6,000万トン × 13.8% = 1億8,768万トン になります。

東京ドーム<sup>6</sup>で換算すると 約77,222個 必要になります。

吉村一建設では、企業活動での二酸化炭素(co2)削減を目標とし、2005年から活動を行なってきました。その推移はこのようになります。

年度	実績 / 目標(トン)	削減数値(トン)	備考
2005年	127.69 トン		
2006年	120.68 トン	7.01 トン	
2007年	目標 117 トン		2005年の8%削減
2008年	目標 115 トン		" 10%
2009年	目標 113 トン		" 11%
2010年	目標 111 トン		" 13%

着工面積1㎡あたり co2 排出量は 6.78kg-co2/m<sup>2</sup>になります。

### Q1 杉の木何本分削減できましたか？

A1 杉の木1本が1年間で吸収する co2 量が約14kg.だといわれています。

2005年では、127.69tをまず、kgにすると127,690kg.になります。

杉の木1本分14kgで割ると約9,120本です。

2006年では、120.68tですから120,680kg. です。

杉の木1本分14kg.で割ると約8,620本です。

9,120本 - 8,620本 = 500本

1年間で、500本分削減できました。

杉山<sup>8</sup> 1ヘクタールで約1,000本と言われております。500本ですから0.5ヘクタールの杉山を守れた計算です。

また吉村一建設が排出する co2 量には、8,620本の杉が必要だという事になります。

<sup>4</sup> 温室効果ガス(二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、代替フロン等3ガス)で主は二酸化炭素

<sup>5</sup> 京都議定書削減約束 2008年から2012年の4年間で日本は6%排出削減義務

<sup>6</sup> 東京ドームHP調べ 124万m<sup>3</sup> 炭素ガス1m<sup>3</sup>=1.96kg.にて計算

<sup>7</sup> Co2 排出量120,680kgを着工床面積18,709.83m<sup>2</sup>で割った数値です。吉村一建設が建築する場合1㎡当たり6.78kgのco2が排出されるという事です。-2006年実績-

<sup>8</sup> 1haでの利用間伐時期(31年生~35年生)では、約1,000本です

b) 3R + 1R への取り組み

一般的には、『3R』というのは、良く耳にします。(リデュース、リユース、リサイクル)です。購入した物に対しては3R運動を行う事は企業として当然です。しかし購入以前にも検討する必要があります。

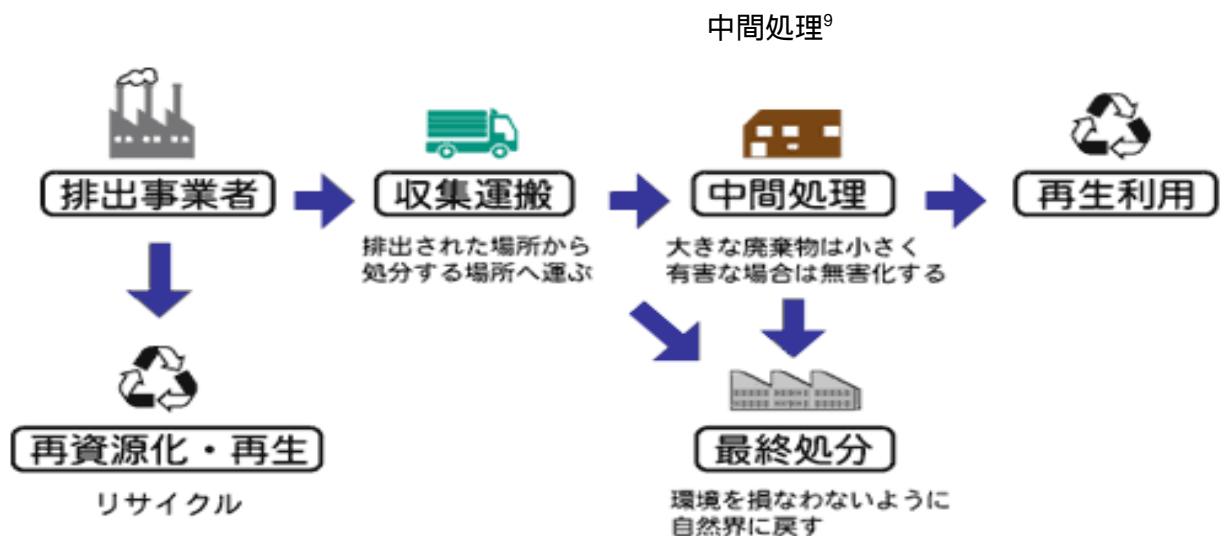
吉村一建設は、『4R』(リフューズ-購入削減、適正購入)を推進しています。

環 境 心 得	
リフューズ	『購入削減、適正購入』
リデュース	『排出抑制、分別排出』
リユース	『再使用』
リサイクル	『再生利用』

c) 産業廃棄物 排出量 削減

ゴミ = 廃棄物には、大別して皆様のご家庭から出る「一般廃棄物」と私たち企業から出す「産業廃棄物」に分かれます。「産業廃棄物」の量は1年間で約4億1,200万トンにもなり、「一般廃棄物」の約8倍にもなります。

「産業廃棄物」は、発生させた事業者が法律に定められた処理基準によって自ら処理することになっており、またそれ以外にも委託基準に基づき、他人に処理を委託する事も法律で認められています。後者の方法によることが多いもので、吉村一建設も適正業者へ処理を委託しています。流れはこのようになります。



<sup>9</sup> 中間処理とは、技術を駆使して、廃棄物を減量、減容化、無害化、資源化することです。最終処分場が著しく不足している現在、重要な役割を担っています。

吉村一建設の現場で産業廃棄物は、袋に分別、収集しておりしております。また倉庫へ持ち帰り現在2007年では、10種類(混載ゴミ)〔サイディング〕〔耐火ボード〕〔木屑〕〔チップ〕〔ダンボール〕〔発砲スチロール〕〔空き缶〕〔ペットボトル〕〔鉄くず〕に分けてそれぞれ排出しております。

排出量状況 (2005年-2006年)

産業廃棄物 品名	2005年 (トン)	2006年 (トン)
現場コンテナ	26.5	0
混載ゴミ	617.23	291
リフォームゴミ	0	23.95
木屑	62.385	182.4
耐火ボード	0	20
サイディング	9	40.8
発砲スチロール	0.28	0.7
空き缶	0	0.23
鉄くず	0	0.71
チップ	93.58	140.96
ダンボール	5.8	22.64
総排出量 計 (トン)	814.775	727.39
リサイクル率	59.9%	72.25%
着工棟数 <sup>10</sup>	189	219
1棟当り排出費用	¥ 51,100	¥ 30,728

2005年と2006年での実質比較になります。まず現場コンテナの設置を2005年途中から廃止しました。これにより、現場での分別管理が義務付けられました。また、2006年より〔リフォームゴミ〕〔耐火ボード〕〔サイディング〕〔空き缶〕〔鉄くず〕への分別を開始しました。

結果として、総排出量は、マイナス87.385トンの削減、リサイクル率は72.25%へ向上、1棟当りの排出金額はマイナス¥20,372-に成功いたしました。

2007年の目標値は、

総排出量 計	690t
1棟あたりの総排出量	3.0t
リサイクル率	75%

今後、更なる分別収集と排出を行い 総排出量の削減とリサイクル率の向上の努力を行って参ります。

<sup>10</sup> 着工棟数は、月での上棟数を言います。決算ベースでの棟数とは少し違ってきます。

d) エコバックプロジェクト

レジ袋の削減などの容器包装3R推進キャンペーンの一環として、マイバック(エコバック)を持参して買い物する運動が広がりつつあります。一部の地区では、レジ袋の有料化もすでに実施されています。

そこで吉村一建設で[エコバック]を作って、使って、私たちの周りから広げていこう！ という企画を行ないました。まずは、足元の小さなゴミから無くしてそれを自分の周りの人へ伝えていこうと考えました。

1 社内ですでにエコバックを使用している者実際に持って来てもらい、それを見ながら検討をしました。



レジ袋を断る事で、ポイントが貰え、スタンプカードにスタンプが溜まると換金や商品券がもらえるサービスが多いようです。



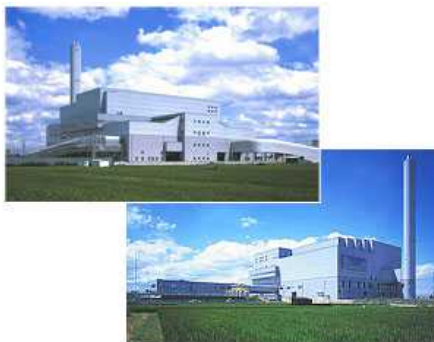
スタンプカード

2 私たちの住む、堺市の環境事業への状況を把握すべく、「堺市リサイクルプラザ」と「堺市クリーンセンター東第2工場」へ工場見学に行きました。



「堺市リサイクルプラザ」では、家庭から出た、資源(缶、ビン)が収集され、ここでスチール缶、アルミ缶、ビン(白色、茶色)、ビン(その他色)に分けられて、それぞれリサイクルされていました。

ほとんど仕分け作業は手作業でした。キャップを外す作業に手間が掛かったり、ケガをしたりと ゴミを出す時の私たちのモラルを改めて認識しました。出来る事から気をつけていきたいと実感しました。



「堺市クリーンセンター東第2工場」では、家庭ゴミ、事業ゴミ、粗大ゴミが収集運搬されてきて、焼却処分されます。その後灰は最終処分地(埋め立て地)へと搬入されます。ここでは、1日に900tのゴミが収集されます。凄い量です。

堺市では、平成22年までに市民1人が出すゴミ量を120グラム減らそうという目標があります。120グラム？ 玉ねぎ1つくらいでしょうか？ 意識すると出来そうですね。少しでも目標に近づけるように頑張ります。

### 3

#### オリジナルエコバック完成！！



イメージキャラクターのヨッシーくんの口ゴ入りで、茶色と緑色の2色です。  
肩からさげれて、重いものにも対応します。  
更に内側には、ちゃんと保冷シートが貼られていますので、冷蔵、冷凍品の対応もばっちりです。

「We Live Together The Earth」というのは、私たちは地球と共に生きる という意味で環境に優しくをモットーにしました。  
このキャッチは、一般の方の作品です。



### 4

#### 完成したエコバックを持って実際にお買い物へ！



レジの方が手際良く商品をエコバックの中へ入れてくれました。



コチラでは、ポイントカードを提示します。

あとは、紐を縛るだけです。手間も時間も短縮できました。

### 5

平成 18 年12月に毎年行なっています「Q&Eミーティング」という会議があります。その出席者様(御客様から協力業者様まで)へ配布を行ないました。

また弊社の住宅を購入していただいた皆様へニュースレターを配布しています。その新年号に添付しました。私たちから皆様へ輪が広がりました。

“ We Live Together The Earth - 地球と共に ”

どうぞ御協力ください。

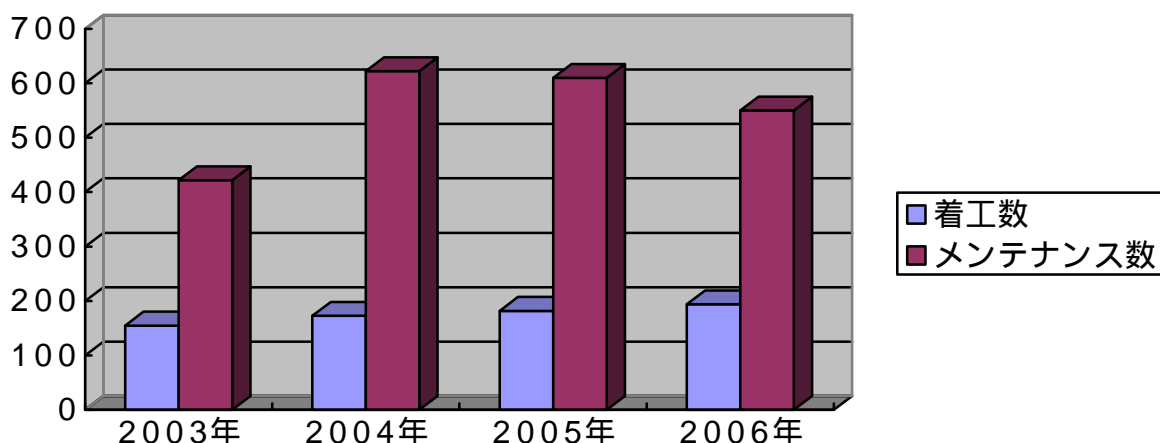
e) 2006年度のメンテナンス状況(クレーム、定期点検時の不具合事象)

吉村一建設では、お客様から寄せられる数々のメンテナンス事象を毎年分析、発表しております。これは、吉村一建設の施工レベル向上の為のひとつの指数として、また必ずお客様のお困りの問題を解決できた記録としております。

寄せられるメンテナンスの中では、上位5種はこのようにランキングされます。

順位	メンテナンス事象	主な補修方法
1	室内ドア、クローゼットドア等の開閉不良	- 調整
2	サッシ、窓、玄関扉等の開閉不良	- 調整
3	クロスのはび割れ、ジョイント不良	- コークボンド補修、張替え
4	住宅設備品の故障	- 場合によって交換(メーカー対応)
5	給排水設備の疑問	- 機器点検

過去の経歴をみるとこのように推移しております。



着工数(上棟ベース)は、2003年より増加しておりますが、メンテナンス数においては、2004年から減少傾向になっております。

これは、吉村一建設が行っている、品質管理、環境監理が有効に働いており、問題発生から、改善及び是正までの各取り組みが、形になり、数字で現れている証拠だと感じております。

メンテナンス処理には、お客様に対して、多大なご迷惑がかかるほか、工事のやり直しが発生する場合、廃棄物増加に繋がり、環境にも負荷を与えます。

「環境に優しい住宅 それは お客様に優しい住まいづくり」

吉村一建設は、真剣に取り組んでいます。